



空き家を再び人が集う場所へ。
地域や人々との繋がりと共に
「暮らすように泊まる」体験を
提供したい。

Interview

小豆島
西の家

高木 威一郎さん 由貴さん ご夫婦

宿泊をきっかけに、島の歴史や文化に触れてもらえる心がけています。
地元のプロducerや事業者と連携することで、宿泊だけでは終わらない体験が生まれます。
ゲストと地域・人をつなぐ場でありたいと考えています。

現在、農林漁家民宿をどのような形で営業されていますか？

「西の家」は、基本的に一棟貸しで利用していただく、築およそ100年の日本家屋の宿です。もともと醤油会社が所有していた建物で、100年前の当時からゲストハウスとして使われていました。その後、長い間空き家の状態が続いていたのですが、「その空き家をどうしようか」という話があり、それならば民泊として使わせてもらえないかと家主の方に許可を頂いて始めたのがきっかけです。

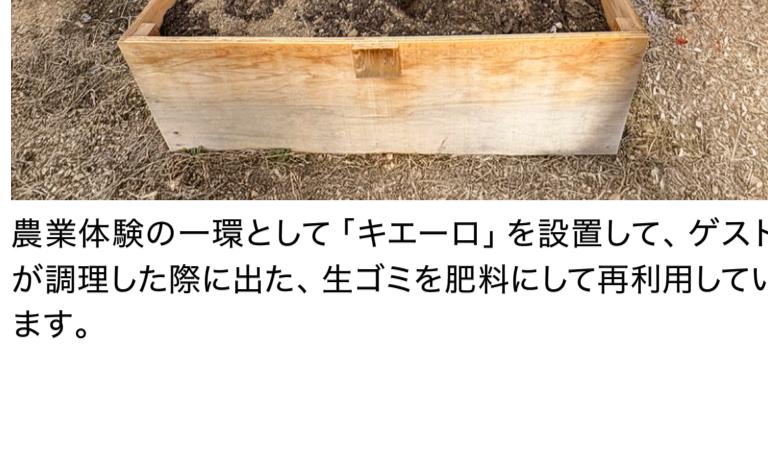
小豆島には魅力的な名産品が数多くあり、素麺もその一つです。ご希望のあるゲストには、島内の素麺製造会社と連携し、「手延べ素麺づくり」の体験をご案内しています。食事については、宿の目の前に地元で採れた野菜や魚を使った郷土料理を提供している「厩」というお店があるため、そちらをご紹介します。宿泊の翌朝には、ヨガのインストラクターを招いて一緒にヨガを楽しむという体験も可能です。そのほかにも、ご要望があれば醤油蔵やオリーブ公園など小豆島ならではの名所をご紹介しますり、タイミングが合えば私自身が車で島内を案内したりすることもあります。

また、農業体験の一環として、庭には「キエーロ」と呼ばれる、生ゴミを分解して肥料に変える木製の箱を設置しています。これは宿との相性も良く、ゲストが調理の際に出た生ゴミを入れていただくことで再利用ができ、環境保全にもつながっています。

この宿で最も大切にしているのは、ゲスト一人ひとりのニーズに合わせて、小豆島の滞在を心から楽しんでいただくことです。こちらから一方的に体験を押し付けることはせず、必要に応じてアドバイスをし、リクエストがあればそれに応える。そんな距離感を大切にしながら宿を運営しています。



宿泊の翌朝にはヨガのインストラクターと一緒にヨガを楽しむことができます。



農業体験の一環として「キエーロ」を設置して、ゲストが調理した際に出た、生ゴミを肥料にして再利用しています。

お宿のPRポイントをお教えてください

日本の伝統的な建物を活かして、「暮らすように泊まる」体験をしていただくことを大切にしています。そのため、当時の面影はできる限り残しながら、キッチンやお風呂などは改修しました。

お風呂については、当初は檜風呂を希望していたのですが、工務店の方から「檜よりも香りが良く、体が温まりやすい」と提案を受け、高野横の湯船を採用して頂きました。実際にご利用いただいたゲストからも「とても良かった」と好評をいただいています。日本の生活文化を、そのまま体験できる点も宿の大きな魅力の一つです。

1週間ほど滞在される方もいらっしゃる、「心の洗濯ができました」という言葉を頂くこともあります。長らく使われていなかった家が、こうして再び人を迎え入れ、喜ばれている姿を見ると、「家も喜び、ゲストも喜び、私たちも嬉しい。みんながハッピーになる」と感じながら営業しています。

緑側に座り、庭を眺めながらお茶を飲むだけ、という過ごし方をされる方もいらっしゃいます。それもまた、とても豊かな時間だと思えます。ゲストが帰られた後、掃除に入るまで縁側に座布団が置かれていて、「ここで景色を眺めて過ごさせていたんだらうな」と想像することがあります。私が想定してない使い方でも、楽しんでいただけるのであれば、どんな形で宿を利用していただいてもいいと思います。

また、宿と連携している素麺会社では、手延べ素麺を箸で分ける作業を体験することができます。日常生活ではなかなか経験できない体験なので、日本の方はもちろん、海外の方にも喜ばれる体験です。さらに、近隣で郷土料理を提供している「厩」さんでは、島の食材を活かした料理を味わうことができ、さまざまな郷土料理のコースも楽しめます。郷土料理に加え「二十四の躰」を書いた壺井栄さんの小説に出てくる料理をアレンジして前菜に盛り込んでいます。民宿と地域が連携することで、小豆島の多彩な魅力を感じていただけると思います。

夏場にはお子さん連れのご家族が利用されることもありますが、普段は2〜3名での宿泊が多いです。最大7名まで宿泊可能な民宿ですが、意外にも少人数での利用が多く、広い家屋をゆったりと少人数で使いたいというニーズがあるのかもしれない。宿を通して、小豆島ならではの体験をしていただき、ここでしか味わえない時間を楽しんでいただけたらと思っています。



高野横を使用したお風呂や、伝統的な建物を活かして、日本の生活文化を体験できるようにしています。



郷土料理を提供するお店「厩」を運営されているご夫婦(右のお二人)。店名の「厩」は、小説家 壺井栄さんの出世作のタイトルにちなんで名付けられたそうです。



地元の素麺会社と連携しているため、日常では経験できない「手延べ素麺づくり」を体験することもできます。

なぜ農林漁家民宿をはじめようと思ったのでしょうか？

小豆島には、豊かな自然に加え、食文化や歴史といった多くの魅力があります。「西の家」も、そんな島の歴史を今に伝える建物のひとつですが、それが十分に活かされないまま時間が過ぎていくことに、もったいなさを感じていました。各地で空き家問題が深刻化する中で、自分たちの身近な場所から、空き家を活用する取り組みができればという思いもありました。空き家を利用して、島の暮らしや文化を、実際に体験できる場として活かしたいと考えてきたのが、民宿を始める大きな理由です。

宿の目の前にはオリーブビーチの砂浜が広がり、夏には海水浴やSUPなどのアクティビティを楽しむことができます。徒歩で行ける距離なので、水着のまま宿に戻ってくることもできます。こうした立地条件の良さも、ゲストにさまざまな楽しみ方を提案できるのではないかと考えたのも、きっかけの一つとなりました。

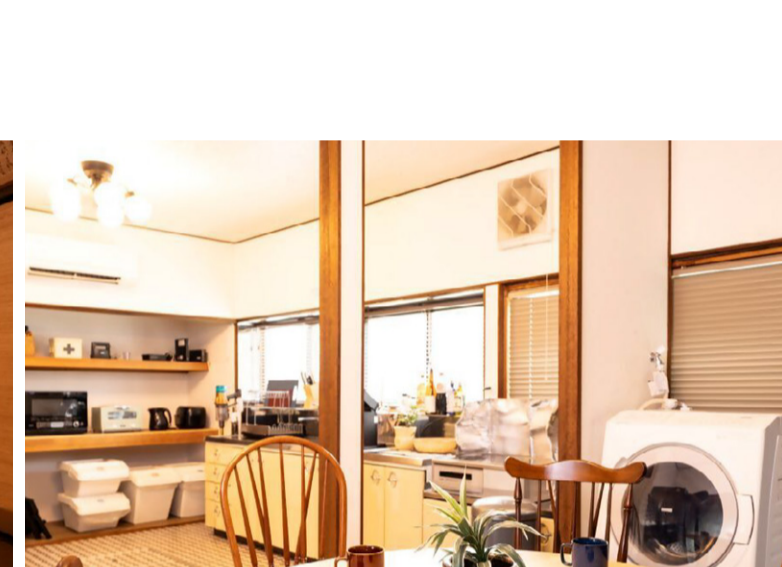
また、観光で訪れるだけではなく、島の日常や人の温かさ、食やものづくりの背景を、宿泊を通して伝えたいという思いもあります。地域の生産者や事業者と連携することで、宿が地域と来訪者をつなぐ窓口となり、島全体の魅力向上や、持続的な関係づくりにつながっていくのではないかと感じています。



もともと醤油会社の建物だった、築100年程の「西の家」。広々とした日本家屋の一棟貸しで、最大7名まで宿泊も小豆島の歴史を今に伝える建物の一つです。



広々とした日本家屋の一棟貸しで、最大7名まで宿泊することができます。



明るく広めのダイニングキッチン。調理道具や食器類は豊富に揃えています。

旅館業法等の開業手続きは、ご面倒ではなかったですか？

民泊として開業する際には、修繕を依頼した工務店に手続きに詳しい方がいらっしゃり、その方からアドバイスをいただきながら進めることができたため、とても助かりました。ただ、旅館業法に基づく簡易宿所営業の申請には、やや時間がかかってしまいました。

その後、民泊を開業してから知人を通じて農林漁家民宿のことを知り、体験型の取り組みができる点に興味を持ち、農林漁家民宿の資格を取得しました。申請手続きについては、香川県の担当者の方にいろいろと教えていただきながら進めることができたので、思っていたほど手間はかかりませんでした。

農林漁家民宿を開業して良かったことは何ですか？

開業して良かったと感じていることの一つは、活のつながりが大きく広がったことです。宿泊後もSNSなどを通じて交流が続くことがあり、「宿泊者との出会い」こそが民宿の醍醐味だと実感しています。訪れる方の6〜7割ほどは、台湾や中国、欧米など海外からの方です。中には日本語を少し話せる方もいますが、それだけでは十分なコミュニケーションが取れないと感じることもあり、もっと繋がりを深めるために英語の勉強を始めたんです。

宿泊者だけでなく、これから民泊を始めようとしている方が見学に訪れてくれたり、私自身も他の経営者の民泊に泊まりに行ったりすることで、民泊経営者同士のつながりも生まれています。民宿をしていなければ出会えなかった人たちがつながることは、本当に素晴らしいことだと思えます。

あるとき、高松市の民泊に宿泊した際、そこで出会った韓国の方と少し話そううちに仲良くなりました。翌日は「西の家」の掃除があるため帰る予定でしたが、偶然その方も小豆島に行く予定だと分かり、翌日、車で一緒に寒霞渓や醤油蔵、エンジェルロードを巡り、小豆島中を案内しました。とても喜んでくれて、今ではその方と友だちになっています。民泊をしていなければ、きっとこのような経験はできなかったと思います。

また、私はもともと医療関係の仕事をしており、当時の実習先の先生とは今でも交流があります。ただ、なかなか会う機会がなく、お会いできずにいました。先日、思い切って「今度お会いしませんか」と連絡してみたところ、とんとん拍子で話が進み、実際にお会いすることができました。その際、先生が「もう医療関係を辞めて民宿をやるんですか？」とことで、延部焼や有田焼などの食器を用意してください、「これ、全部あげるよ」と譲ってくださいました。いただいた食器を民宿のゲストの方に使ってもらうことで、日本の陶器を楽しんでもらえると思い、とてもありがたく感じています。

民宿を通して海外の人や日本人たちと繋がることができる。そして、素麺会社の方、郷土料理をされている方、ヨガの先生など地域の生産者や事業者の方々と新たな関係ができる。宿を始めて行動を起こすことで、様々な関係が広がって行ったのだと思います。



小豆島を案内する中で親しくなり、今ではかけがえのない存在となった韓国の友人。



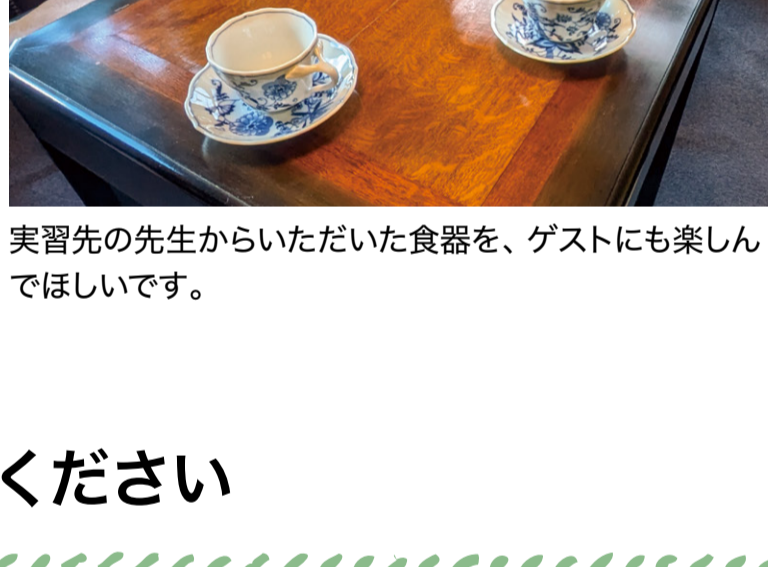
実習先の先生からいただいた食器を、ゲストにも楽しんでほしいです。

宿泊者とのエピソードで心に残ったことがあれば教えてください

以前、ポルトガルからお二人で瀬戸内国際芸術祭を観に来られたゲストがいました。「豊島と直島に行くんだ」と、とても楽しみにされていて、私は「じゃあ、行ってらっしゃい」とお見送りしたのですが、実はその時期がちょうど会期と会期の間で、豊島も直島も美術館が閉まっていたのです。現地ですれ違った二人は大変ショックを受けていました。

このままでは申し訳ないと思い、会期外でも鑑賞できる小豆島のアート作品を、車と一緒に案内することにしました。勉強中の英語を交えながら、なんとかコミュニケーションを取りつつ巡って来てくれて、とても喜んでくれて、「誰がこんな体験できるんだ。こうして一緒に車で巡ってあげれば、決して味わえない体験だ」と直島と豊島では少しづつ思いを話してくれ、その分りかばりできて、最高の思い出になったよ」と言ってもらえました。

小豆島には見どころがたくさんあるのに、まだまだ知られていないと感じています。そんな魅力を実際に体験してもらい、喜んでくれたことは、本当にやってよかったと思える出来事でした。このエピソードは、きっと一生忘れないと思います。

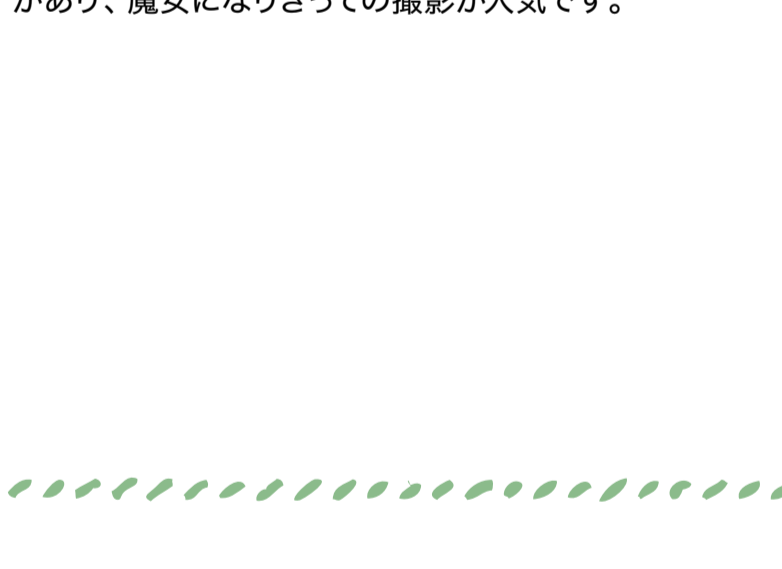
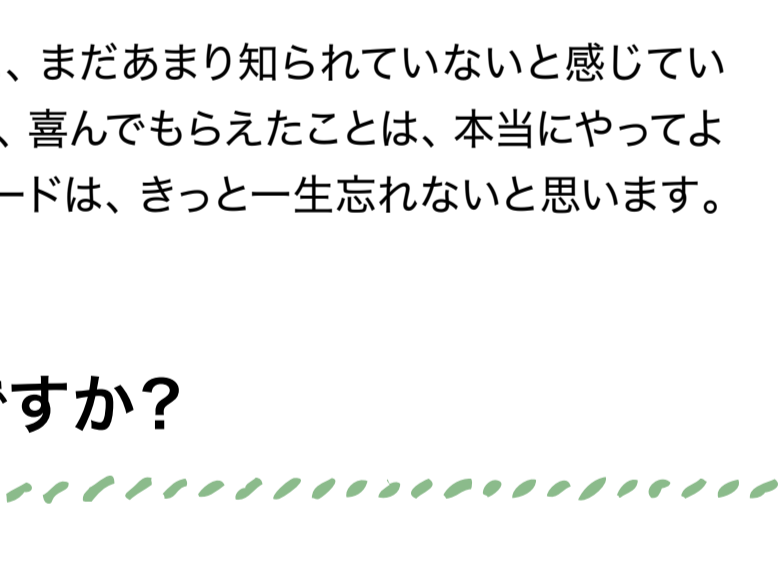
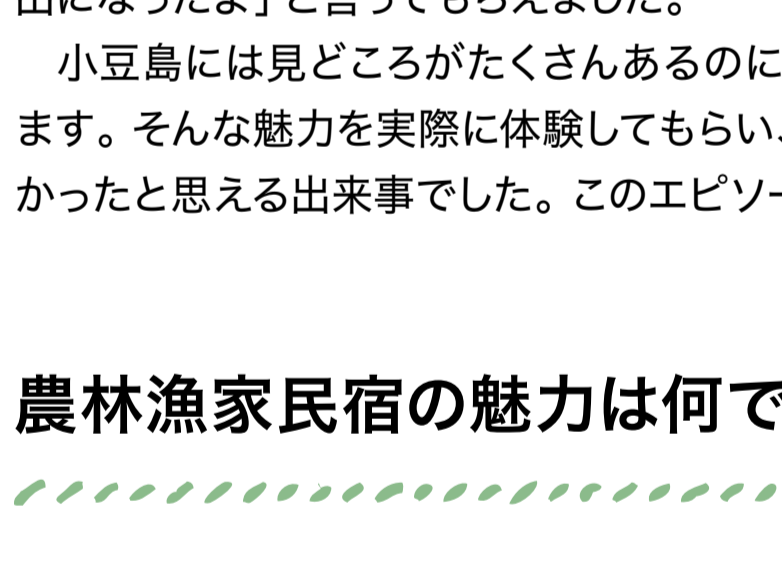


宿の近くには映画のロケ地にもなった小豆島オリーブ公園があり、魔女になりきっての撮影が人気です。

農林漁家民宿の魅力は何ですか？

この土地でしか味わえない暮らしや、人との距離の近さにあると思っています。宿泊を通して体験することは、観光地を巡るだけでは見えてくれない。この地域ならではの良さを感じてもらえる点ではないでしょうか。こちらから体験の提案はしますが、楽しみ方を決めるのはあくまでお客様自身です。その人なりの楽しみ方をしていただけるように、さまざまな選択肢や要素を用意しておきたいと考えています。

私は「西の家」だけで完結するのではなく、地域のひととの連携を大切にしています。私の力だけでできることは限られていますが、民宿のお世話を管理するのは私が行い、体験の産出や、日々の活躍や、日々の生活にあってはならない協力があってこそ実現できるものです。そうした地域とのつながりこそが、ゲストの方に感じていただく、宿泊だけでは終わらない農林漁家民宿の魅力なのではないかと思っています。



緑側の窓から和風の庭を眺めることができる。ゆったりとした空間が広がります。

農林漁家民宿の今後の目標を教えてください

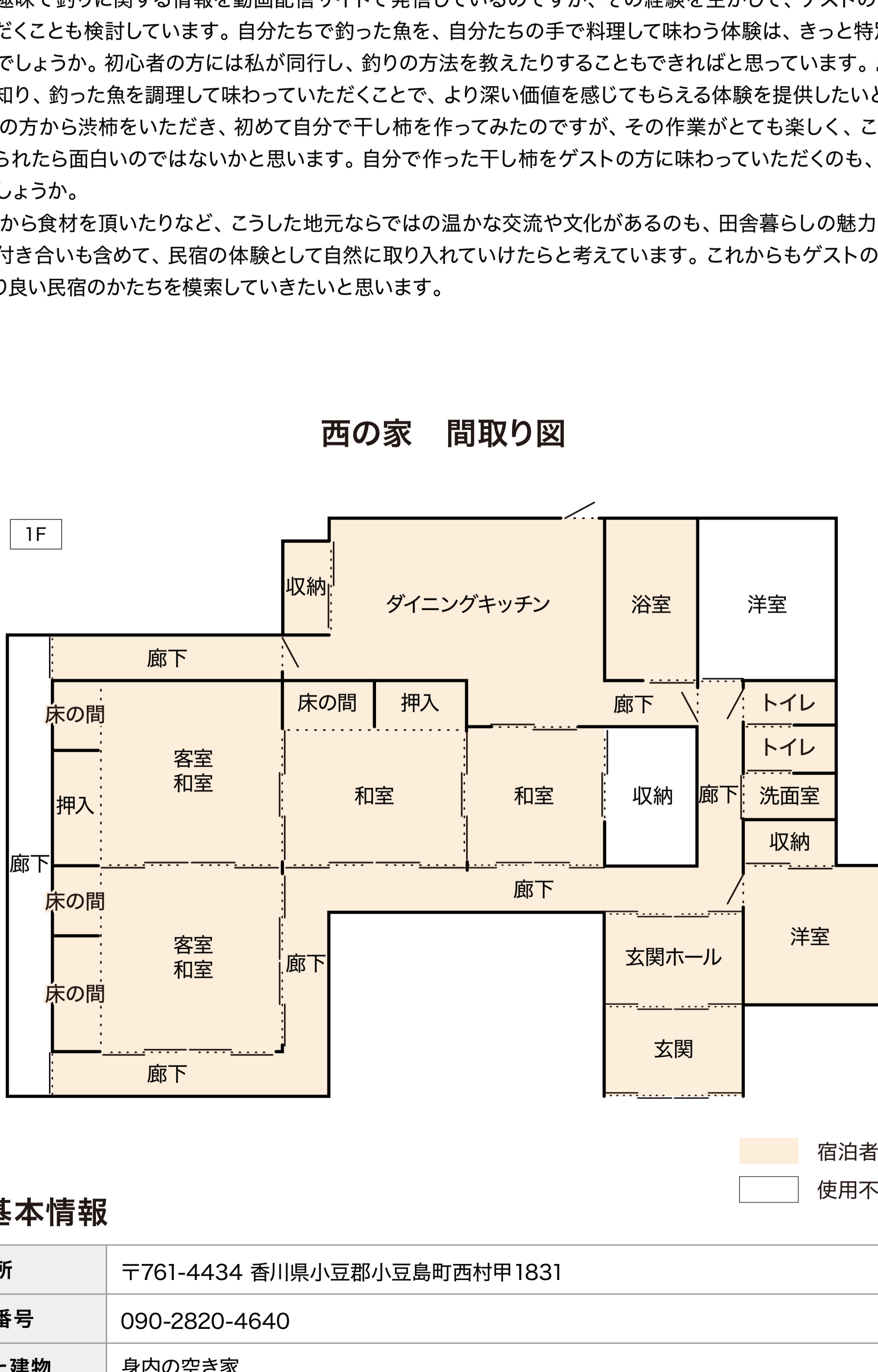
今後は「西の家」を拠点に、小豆島ならではの魅力はもちろん、香川県全体の魅力もより多くの方に伝えていけたらと考えています。

また、私は趣味で釣りに関する情報を動画配信サイトで発信しているのですが、その経験を生かして、ゲストの皆さんに釣りを体験していただくことも検討しています。自分たちで釣った魚を、自分たちの手で料理して味わう体験は、きっと特別な思い出になるのではないのでしょうか。初心者の方には私が同行し、釣りの方法を教えたりすることもできればと思っています。島の自然や海との関わり方を知り、釣った魚を調理して味わっていただくことで、より深い価値を感じてもらえる体験を提供したいと考えています。

先日ご近所の方から渋柿をいただき、初めて自分で干し柿を作ってみました。その作業がとても楽しく、こうした体験も民宿に取り入れられようかと思っています。自分で作った干し柿をゲストの方に味わっていただくのも、喜んでもらえるのではないのでしょうか。

ご近所の方から食材を頂いたりなど、こうした地元ならではの温かな交流や文化があるのも、田舎暮らしの魅力の一つです。そうしたご近所付き合いも含めて、民宿の体験として自然に取り入れていけたらと考えています。これからもゲストのニーズに寄り添いながら、より良い民宿のかたちを模索していきたいと思っています。

西の家 間取り図



西の家 基本情報

住所	〒761-4434 香川県小豆郡小豆島町西村甲1831		
電話番号	090-2820-4640		
活用した建物	身内の空き家		
営業期間	通年 チェックイン15:00〜22:00 チェックアウト〜10:00		
宿泊スタイル	一棟貸し		
体験メニュー(オプション)	家庭菜園収穫体験 小豆島食材を使用したレストランの予約、ご案内 そうめん体験。そうめん試食のご案内 オリーブの知識付与、オリーブ公園ご案内 ヨガ体験		
食事	自炊		
宿泊料	2名20,000円〜 Booking.comやAirbnb、電話などからご予約可能です。Instagramにリンクを貼ってあります。		
ホームページ	Instagram: 西の家【香川県小豆島の民泊】 https://www.instagram.com/shoudoshima_nishinoie/		
	YouTube: 釣りバカいっちゃんファミリーフィッシング https://www.youtube.com/@釣りバカいっちゃんファミリーフィッシング		
	民泊の歩き方 https://www.youtube.com/@民泊の歩き方香川県の民		
	Shodoshima Days https://youtube.com/@shodoshimadays		